

令和8年度社会教育委員等研修会 参加報告

新潟市社会教育委員（ 小田 八重子 ）

- 1 期 日 令和8年6月24日（水）
- 2 会 場 長岡市中央公民館
- 3 対 象 県及び市町村社会教育委員、生涯学習・社会教育行政関係者
- 4 主 催 新潟県社会教育委員連絡協議会 （共催：長岡市）
- 5 研修内容 第1部 事例発表（見附市）
第2部 グループワーク①（見附市の事例発表をもとに話し合い）
第3部 グループワーク②（地区ブロックごとの話し合い）

6 研修内容概要

山田会長より「体制改革の2年目。何のための情報交換か。」については「孤独な町や地域をつくらない。仲間が増えてくると楽になる。」という趣旨のお話があった

第1部「社会教育委員がつなぐコミュニティ・スクールと地域学校協働活動～見附市立見附中学校での取組～」

昨年度 第56回関東甲信越ブロック社会教育研究大会で発表。

○ 見附市社会教育・スポーツ推進審議会委員として15名。審議会開催は年2回。委員の意見・情報交換会（奇数月）、委員が主催する事業（市民向け通信発行、「ボッチャ体験会」他）。LINEつながり

○ 見附市「共創郷育の推進～地域と共にある学校づくり～」が基盤にある。

[見附中学校での取組]「見中ロードマップ」作成、「みちゅまいも(サツマイ)」を育て収穫、それを使い地域全体を巻き込んだ「友和祭」実施。「ドーナツプロジェクト」がスタートし行政や地域の製菓業者が後押しをして活動を広げている。「地域の人や貢献できる行事にかかわりたい」という生徒が育っている。

社会教育委員（発表者2名のうち1名は学校運営協議会委員）は、学校と地域間をつなぐ「地域の潤滑油」として活動し地域を盛り上げてきた。

第2部グループワーク① 4～5人で実施（社会教育委員及び行政担当者 87名参加）

○ <発表者への質問>「見附市では地域の事業に大人や子供の参加が多い。何故？」

<回答> 回覧板を回すだけで集まる。保護者がのめりこんでくる。子供たちが自主的にSNSで先輩などにも呼びかけて想像以上に集まった。

<回答> 以前「見附教育の日」があった。市内の小・中学生が集まり情報交換し合い他校のことを知り合うきっかけとなった。また、父親の行事への参加意識が慣習として高く、大人のまとまりやすさとなっている。

現在は、子供の居場所づくりとして「わくわく体験塾」（市内地域有志による登録制度）がある。

<グループでの話し合い>

○ 事業での集まりやすさは、子供の動きやすい基盤、大人のつながりの基盤があり、そこに社会教育委員が地域へ働き掛けて一層楽しいイベントになったのではないかと。

○ この実践（共創郷育）を通しての生徒の成長や成果が具体的数値として示されるとよりよかったと思う。

- 社会教育委員が自主的事業の主体となることはない。予算も無い。市のために役立つ提言をすることが社会教育委員の仕事と受け止めている。社会教育委員として公民館事業への提言をすることが多い。(燕市)
- 書面で事業計画・報告を聞き質問・承認。総合型地域スポーツクラブ事業などの社会教育の活動を周囲から見守り感想を述べていきたい。(村上市)
- 村の事業の説明へ意見具申している。社会教育委員の選出は期限があり極端に任期の長い委員はいない。「郷土かるた」(村の歴史や文化を継承するため地域で2年間ほど続けている)の作成を応援している。(刈羽村)。
- 自治体によって社会教育委員の位置づけ(立場)が異なる。社会教育委員の役割を行政が明確にして欲しい。(2市町村から)

第2部グループワーク② (新潟市はブロック加入無。Aブロック2名と新潟2名のグループ)

- Aブロック(3地区)は「2026年度 関東甲信越ブロック社会教育委員研究大会」担当。
 - ・日時 2026年11月6日(金)午後
 - ・場所 「ユートピアくびき希望館」
 - ・内容 オンラインは無。開会式・表彰式・研修、閉会式は無。
 - ・事例発表 新潟市
- 大会実施についての準備の状況について熱く話された。

7 感 想

- 県内他地区の社会教育委員や行政担当の方々の取組状況を聞くことができる良い機会となった。それぞれの報告から、社会教育委員の役割の受け止めは各市町村に委ねられていることが分かった。(新潟市は今年度第1回会議で示されています。)
- 見識のある参会者の方々であり、共通のテーマや視点で話し合ったらさぞ深く面白い協議になったであろうと感じた。(市町村の状況が異なり無理だとは思いますが。)
- 見附市の事例から、「人や地域の基盤」を活かすことは活動の原動力であると再認識した。新潟市の各地域の「基盤」や「財産」を活かした持続可能な事業となるよう、情報を得たり提言したりできたらと思った。